



議長として2年間
2017.9-2019.7

●様々なイベント等に 議会を代表として参加

可能な限り、スケジュールを調整、様々なイベント、催し物等に足を運び、主催者の皆さん等から様々なご意見等をお寄せいただきました。



●八潮市議会、長年の検討事項であった 「八潮市議会基本条例」を制定

議会の最高規範でもある、議会基本条例を制定、議会及び議員の活動の充実と、活性化を図り、より開かれた八潮市議会を目指しています。



●市議会「議会だより」をリニューアル

当時の議会報編集委員会の委員と共に、より見やすく、伝わる議会報を目指し、どんな議会報が良いか「市民アンケート」を開催、表紙のカラー化等、内容のリニューアルを行いました。

●市長と議会が連携して要請活動

朝の通勤時間帯の、つくばエクスプレス混雑緩和のため、大山市長とともに、8両化の早期実現等を、首都圏新都市鉄道(株)へ要望しました。



●議長公務日程を公開、議会開催チラシの見える化

正副議長の公務を市議会ホームページに掲載、また議会チラシのデザインを一新、議会をより身近に感じていただく取り組みを実施しました。



八潮生まれ！八潮育ち！あさだ和宏プロフィール

- 1968年 八潮市生まれ、八潮保育園、大瀬小学校(八小)、大原中(二中)、私立成立学園(商業科)卒業
- 2001年 八潮市議会議員に初当選(33歳・1229票12位当選)
- 2005年 八潮市議会議員に再選(37歳・1415票9位当選)
- 2008年 専修大学法学部法律学科入学
(40歳・議員として政策提言能力の向上、法律・行政学などを学び2012年卒業)
- 2009年 八潮市議会議員に3選(41歳・1733票3位当選)
建設水道常任委員会副委員長
- 2013年 八潮市議会議員に4選(45歳・2164票3位当選)、総務文教常任委員会委員長
- 2014年 八潮市議会副議長(第44代)に就任
- 2016年 八潮市監査委員に就任
- 2017年 八潮市議会議員に5選(49歳・1657票3位当選)
八潮市議会議長(第34代)に就任

- 生年月日 1968年3月28日 おひつじ座 ●血液型 B型
- 家族 父、母、妻、息子、犬(ミミ)、猫(ミッキー、リリ)
- 好きなこと 写真撮影、ウォーキング、ロードバイク、料理、旅行、食べ歩き
- 資格 調理師、サンマ焼き師・八潮市フレイルサポーター
- その他の役職 (元)八潮市立大瀬小・大原中 PTA会長
(元)埼玉県立八潮南高校 PTA会長・後援会長
(現在)伊勢野自治会長、保護司、青年地方議員の会OB会員、埼玉青志会



私たちも応援してます！



衆議院議員(内閣府副大臣)
三ツ林裕巳



埼玉県議会議員
宇田川幸夫



埼玉県本庄市長
全国市長会社会文教委員長
吉田信解



あきる野市議会(第14代議長)
子籠敏人



関東学院大学法学部・准教授
牧瀬 稔

【討議資料】

ほっとかない NEWS 第62号



和宏のほっとかない!! NEWS ~政策 2021~特別号 vol.62

【発行者】

〒340-0821 埼玉県八潮市伊勢野 306 TEL.090-3402-6388(本人直通)

あさだ和宏を育てる会 <http://challenge-kazuhiro.com/> E-mail: asayan@biscuit.ocn.ne.jp

Find us on
Facebook

あさだ和宏

検索



誰一人とり残さない 八潮市へ！

～Message～

新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活環境、社会環境が大きく変化しました。度重なる緊急事態宣言により、日常生活が一変、コロナ疲れ、自粛疲れ、大切な人と会うことが出来ない等、体調や心のバランスを崩している人も少なくありません。

「ピンチはチャンス！」

今まさに、誰もが経験したことがない困難な時期を迎えておりますが、コロナ禍であっても工夫して出来ることを取り組む、人と人とのつながりを大切に、相手を思いやり、支え合って進んでいくことが大切だと思います。皆さんで力を合わせ一日も早いコロナの終息を目指していきましょう。

私自身、微力ではありますが、次の5年、10年先に向けて、誰もが支え合う「地域共生社会づくり」の実現を目指して全力で活動して参りますので、ご指導宜しくお願い致します。

八潮市議会議員 (八潮市議会第34代議長)

あさだ 和宏



八潮市議会議員

あさだ和宏 かずひろ

学校給食は 自校式・センター方式へ



現在は、給食が再開しておりますが、私は、今回の事故を契機に、「安全、安心」は当然のこと、「作り手の顔が見えて、より美味しい」給食を目指して本市の学校給食を抜本的に見直しする必要があると私は考えます。
参考までに、埼玉県内63市町の中で、本市のように民間企業へ全面委託（デリバリー方式）をしているのは本市と滑川町のみで「全体の3.9%」と少数派です。

事故発生後に、設置された「学校給食審議会」でも「公設方式へ移行すべき」という答申が出されました。教育委員会内では、今後の給食に関して様々なケースを想定、検討を進めていますが、この難局を乗り切るには最終的には「**市長がリーダーシップを発揮し、やるべきミッションを明確にすること**」が肝要だと私は考えます。

約20年前、私が議員となり、本市の学校給食のあり方に関して、私も今まで何度も議会で取り上げて、改善をするように求めてきました。

そのような中、昨年6月、前代未聞の「学校給食集団食中毒事故」が発生、市内15校の児童生徒と教職員の約半数にあたる「3453人」が下痢や腹痛等の症状を訴え、2人が入院するという事態になりました。

あらためて被害に見舞われた皆様へ心からお見舞い申し上げます。

過去に前例がない 3000人を超える 学校給食集団食中毒事故

連日、ニュースや新聞等で大きく報道されました



改善案!! 和宏の考え

昨年の9月・12月議会において「学校給食食中毒」「今後の学校給食のあり方」に関して、市長、教育委員会に対して質問を行い、具体的な提案、改善を強く求めました。

一部の学校では、校舎のレイアウトや余裕教室等、様々なハードルがありますが、私は全ての学校で「**自校式・センター方式**」が望ましいと思います。

自校式・センター方式にする事で、八潮市の災害発生時における避難者への食事の提供等、防災機能の強化となります。

この問題は、一朝一夕で解決する事ではありませんが、一日でも早く、未来の八潮を担う子ども達が、「給食」を通して「郷土愛」「自然への恵み、生産者への感謝」が感じられる給食が実現出来るように、市民の皆さんのご意見をいただきながら、早急に方向性を示せるよう進めて参ります。

episode 1 ～明るい未来を築くもの～

- 産前産後の切れ目のないケアの実施、専門家による相談体制の充実を進めます。
- ひとり親家庭支援と、その子どもの学習支援の拡充・居場所づくりを進めます。
- 共働き家庭や都内に通勤する方も、安心して働けるよう、保育園整備や学童保育室の時間延長を充実します。
- 子育て中の女性の起業支援等、スキルを活かした就労を支援します。
- 市内への産科の誘致、陣痛タクシーの整備を進めます。
- 現在の民間委託での学校給食の全面的な整備の見直しを進めます。（詳細については別途記述）
- 児童、生徒一人一人の個性を大切にした教育を推進します。
- GIGAスクール構想に対応した専門家を学校に配置し、ICT教育の充実を目指します。
- 人口増加、減少、時代を見据えた学校の適正配置を検討します。
- 学校トイレの洋式化、学校図書室の整備等を進めます。



子育て
教育

episode 2 ～安心できるよう伝えるもの～

- 各自主防災組織を中心に、各地域の特性を考慮した地域防災力の強化を進めます。
- 高齢者や交通弱者支援のためにコミュニティバスルートの見直しを検討します。
- 交通不便地域へ集合タクシーの導入を検討します。
- 「地区防災計画」を策定し、水害や大地震等の災害に対する「そなえ」を進めます。
- 町会自治会への支援、地域コミュニティの再構築を目指します。
- 民間施設等を活用した、プライバシーが確保できる福祉避難所の拡充を進めます。
- 市が計画を進めている「防災公園」の整備を進めます。
- 犯罪抑止、子どもの見守りの為の防犯カメラ設置を進めます。



暮らし
防犯・防災
地域コミュニティ

episode 3 ～自分らしく生きる・みんなで支えるもの～

- フレイル予防教室、いこい体操等を充実させ、市民の健康寿命を延ばします。
- 障がいのある方の就労支援、家族支援を拡充、自立を支援します。
- シルバー人材センターと連携をして団塊世代、シニアの就労支援、地域デビュー支援策の充実を図ります。
- 8050問題（高齢化する引きこもり問題）の支援策を進めます。
- ヤングケアラー（きょうだい児）の支援を進めます。
- AYA世代のがん支援策を進めます。
- デジタル弱者に対するきめ細やかな支援を充実します。



福祉
高齢者
障がい者

episode 4 ～目に見えて実感できるもの～

- 市内の若手経営者を中心に、行政とのコラボ商品の開発、研究する制度の創設を目指します。
- シティプロモーションを活用し、シビックプライドを高め、本市の魅力を発信、PRします。
- 人口減少社会を見据え、役割を終えた不要な公有地は売却、収入を確保し、より効率的、効果的な行政経営を進めます。
- 中川やしおフラワーパーク内の再整備や、水辺の楽校等、市内に残る貴重な空間を活用、多くの方が訪れる場所になるため支援を拡充します。
- 市民が主体のイベント等が積極的に開催できるようサポート体制の充実を進めます。
- 市内農地の保全、農業の活性化、地消地産の推進、地元農産物ブランド化を推進します。



地域経済
地域資源
行政

誰一人
取り残さない
八潮市へ